

菩薩の智慧

——菩薩地『慧品』の研究——

矢板秀臣

序

本稿は、『瑜伽師地論』の中、『菩薩地(Bodhisattvabhūmi)』第14章「慧品」(Prajñāpātala, 略号 PrP)の原典研究である。同品の和訳とサンスクリットテキスト(PrP pp. 1*-6*)とを提示する。¹

『菩薩地』第9章「施品」から第14章「慧品」の六章において、六波羅蜜(布施、戒、忍辱、精進、靜慮、智慧)が説かれている。そのうちの第六・智慧が説かれる第14章「慧品」が、本稿で扱われる。

「慧品」の構成は、布施品等におけると同じ九節からなり、そして各節が同じように分類されている²。各節を要約すれば以下のようである。

(1) 慧自性(prajñāsvabhāva)。諸法についての[正しい]思擇(dharma-pravicaya)が智慧の自性とされる。

(2) 一切慧(sarvā prajñā)。世間的な智慧と出世間的な智慧の二種に分けられるとする。そして他に三種に分けられる分類が示され、これが詳しく説明される。その三種とは、(i) 所知対象(jñeya)について真実(tattva)を認識し了知するための智慧、(ii) 五明處(pañcavidyāsthāna)と三つの集まり(tri-rāśi, 三聚)を精巧に行うための智慧、そして(iii) 一切衆生を利益する(arthakriyā)ための智慧である。

(3) 難行慧(duskarā prajñā)。難行なる智慧は三種とされる。即ち、(i) 甚深なる法無我(dharmanairātmya)を了知する智慧、(ii) 諸衆生を調御する方便(vinayopāya)を了知する智慧、(iii) 一切の所知対象(jñeya)を了知する智慧である。

(4) 一切門智慧(sarvatomukhī prajñā)。四種とされる。聞・思・修の三慧の中、(i)

¹ 前稿『菩薩の精進』(矢板 2020)等と同じく、サンスクリット校訂本二本(W,Du)、サンスクリット写本三本(R,C,K)、チベット訳(Tib)、漢訳(Ch)、Sāgaramegha の注釈書 (BBhV. チベット訳のみ) を参照する。

² 布施品、静慮品、忍品、精進品については拙稿(矢板 2008、矢板 2011、矢板 2019、矢板 2020)がある。

聞所成(*śrutamayī*)の智慧、(ii) 思所成(*cintāmayī*)の智慧、(iii) 思惟(*pratisamkhyāna*)の力によって攝受された智慧、さらに、(iv) 修(*bhāvanā*)の力によって攝受された智慧、である。

(5) 善士慧(*satpurusaprajñā*)。善士の智慧は二系統の五種、合計十種に分けられる。まず、(i) 正法(*saddharma*)の聴聞に基づく智慧、(ii)如理作意(*yoniśomanaskāra*)に伴っている智慧、(iii) 自利行・利他行のための方便を具えている智慧、(iv) 諸法の無顛倒なる法について確定的なる智慧、(v) そして諸煩惱を打ち破る智慧、の五種、そして、(i') 微細な(*sūkṣma*)智慧、(ii') 周到な(*nipuṇa*)智慧、(iii') 生得(*sahaja*)の智慧、(iv') 聖言(*āgama*)を具足した智慧、(v') 修学(*adhibhāga*)を具足した智慧、の五種である。

(6) 一切行相慧(*sarvākārā prajñā*)。六種と七種で合計十三種示される。

(7) 困窮し求める者に対する智慧(*vighātārthikaprajñā*)。八種示される。

(8) 今世・他世を福樂とする智慧(*ihāmutrasukhā prajñā*)。九種示される。

(9) 清淨慧(*viśuddhā prajñā*)。十種示される。

(a) <六波羅蜜まとめ>

また本章の最後には、『菩薩地』第9章「施品」から第14章「慧品」の六章で説かれてきた六波羅蜜をまとめた一節がある。以下の和訳中、最後の(a) <六波羅蜜まとめ>、テキスト中の(a) <*śat-pāramitā*> がそれである。

その六章は、世尊が多くの諸經典において説かれた六波羅蜜をまとめたものであり、また難行苦行を語った無数の本生譚(*jātaka*)も、この六波羅蜜それぞれに注目しつつ理解されるべきである。さらに諸菩薩はこれら六波羅蜜に基づいて無上正等菩提(*anuttara-samyaksambodhi*)を証覚し、それによって一切衆生のあらゆる種類の円満・幸福を導き出している。このようなことが、この一節に述べられている。

参考文献及び略号

<一次文献>

- AK Abhidharmakośa. *See AKBh.*
- AKBh Abhidharmakośabhbāṣya (Vasubandhu). P.Pradhan (ed.), *Abhidharmakośabhbāṣyam of Vasubandhu*, Patna, 1975.
- BBh Bodhisattvabhūmi.
- BBhV Bodhisattvabhūmivyākhyā (Sāgaramegha). sDe dge edition. D. No. 4047. (P No.5548)
- C A Sanskrit manuscript of BBh. *See Bendall 1883, Add.1702.*
- Ch Chinese translation of BBh. Taishō Shinshū Daizōkyō, No. 1579 (『大正新脩大藏經』第三十卷) .
- D sDe dge edition of the Tibetan Tripitaka. 『デルゲ版チベット大藏經 東京大学文学部所蔵』.
- DāP Dānapaṭala, the 9th chapter of BBh. *See 矢板 2008 (Text: pp.193-207 = pp.1*-15*).*
- Du N.Dutt (ed.), *Bodhisattvabhūmih*, (being the XVth Section of Asaṅgapāda's *Yogācārabhbūmih*), Patna, 1978.
- K A Sanskrit manuscript of BBh. *See Goshima/Noguchi 1983, No.74.*
- P Peking edition of the Tibetan Tripitaka. 『影印北京版西藏大藏經』
- PrP Prajñāpaṭala, the 14th chapter of BBh. *See the present paper (Text: pp. 1*-6*).*
- MSA Mahāyānasūtrālamkāra. *See Nagao 2009.*
- MSABh Mahāyānasūtrālamkārabhbāṣya (Vasubandhu). *See Nagao 2009.*
- MSAT Mahāyānasūtrālamkāraṭīkā (Asvabhāva). D No. 4029.
- MVy Mahāvyutpatti. R.Sakaki (ed.), *Mahāvyutpatti*, Tokyo, 1981 (Repr.). (榎亮三郎『翻訳名義集』)
- R A Sanskrit manuscript of BBh. *See Bandurski 1994, No.28, Xc 14/29.*
- Tib Tibetan translation of BBh. D No. 4037, P No. 5538.
- VīrP Vīryapaṭala, the 12th chapter of BBh. *See 矢板 2020 (Text: pp. 1*-9*).*
- W U. Wogihara (ed.), *Bodhisattvabhūmi, a Statement of whole Course of the Bodhisattva (being Fifteenth Section of Yogācārabhbūmī)*, Tokyo, 1971 (repr.)

<二次文献>

- Bandurski 1994 Frank Bandurski, "Übersicht über die Göttinger Sammlungen der von Rāhula Sāṅkṛtyāyana in Tibet aufgefundenen buddhistischen Sanskrit-Text", In: *Untersuchungen zur buddhistischen Literatur, Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden*, Beiheft 5, Göttingen, pp. 9-126.
- Bendall 1883 C. Bendall, *Catalogue of the Buddhist Sanskrit Manuscripts in the University Library, Cambridge*, Cambridge.
- Goshima/Noguchi 1983 A Succinct Catalogue of the Sanskrit Manuscripts in the Possession of the Faculty of Letters, Kyoto University, compiled by Kiyotaka Goshima and Keiya Noguchi, Kyoto.
- Nagao 2009 G.Nagao, Mahāyānasūtrālambikāra, Annotated Japanese Translation, Study Notes of Gadjin Nagao, (3), Kyoto. <長尾雅人「『大乗莊嚴經論』和訳と註解 ----- 長尾雅人研究ノート ----- (3)> 長尾文庫。
- 加藤 1932 加藤精神譯『瑜伽師地論』(国訳一切経、瑜伽部 三)、東京、1982(repr.).
- 桜部 1969 桜部建『俱舍論の研究 界・根品』法藏館。
- 矢板 1989 矢板秀臣「四種道理についての一資料」(大正大学綜合仏教研究所年報 11), pp.(68)-(77).
- 矢板 2008 矢板秀臣「菩薩の布施—『菩薩地』布施品の研究一」(成田山仏教研究所紀要 第 31 号, pp. 157-207)。
- 矢板 2011 同「菩薩の瞑想—『菩薩地』静慮品の研究一」(成田山仏教研究所紀要 第 34 号, pp. 79-105)。
- 矢板 2015 同「菩薩の力量—『菩薩地』力種姓品の研究一」(成田山仏教研究所紀要 第 38 号, pp. 21-80)。
- 矢板 2017 同「饒益有情戒について」(成田山仏教研究所紀要 第 40 号, pp. 27-55)。
- 矢板 2019 同「菩薩の忍—『菩薩地』忍品の研究一」(成田山仏教研究所紀要 第 42 号, pp. 31-61)。
- 矢板 2020 同「菩薩の精進—『菩薩地』精進品の研究一」(成田山仏教研究所紀要 第 43 号, pp. 27-50)。

『菩薩地』「慧品」和訳

總頌(uddāna)は、以前[の『戒品(sīlapaṭala)』等における]と同様に、理解すべきである¹。

(I) <慧自性 (prajñāsvabhāva)>

(問) これらのうち、菩薩の智慧(prajñā)の自性(svabhāva)とは何か。(答) [これから]一切の所知対象(jñeyā)に悟入(praveśa)しようとしている[段階]の、そして、已に一切の所知対象に悟入したところの、諸法についての[正しい]思擇(pravacaya)が²、内明處、因明處、声明處、医方明處、工業明處の五明處(pañca-vidyāsthāna)を通して³、実現すること、これが菩薩の智慧の自性(prajñāsvabhāva)である、と理解すべきである。

¹ 本稿後出のサンスクリットテキスト p.1^{*}、注1参照。また、矢板 2019 訳注 1 参照。

² Cf. AKBh 2,4: tatra prajñā dharmapravicyayā. 「その[偈(AK I 2a': prajñā' amalā ...)]のうち、智慧とは諸法の思擇である」。Cf. AK I 3ab: dharmāñām pravicyam antareṇa nāsti kleśāñām yata upaśāntaye 'abhyupāyah. 「諸法の思擇[すなわち智慧]以外には、諸煩惱を鎮めるための方法はない」。Cf. AKBh 2,23 (ad I 3ab): yato na vinā dharmapravicyenāsti kleśopaśamābhupāyah. 「諸法の思擇 (=智慧) なしには諸煩惱を鎮める方法はない」。Cf. 桜部 1969 p.137f.

Cf. MSABh ad XVI v.27a: "samayakpravicyo jñeye"(v.27a) iti svabhāvah. 「『所知対象についての正しい思擇』が[智慧の]自性である」。Cf. 長尾 2009 p.49.

また「諸法の思擇(dharmapravicya)」なる言葉が、菩薩地『力種姓品(Balagotrapaṭala)』において次のようにある(矢板 2015, p.50)：「観(vipaśyana)とは何か。(答：) まさにこの止(samatha)により熏修せられた作意によって、さらに、思惟された通りの諸法について、相(nimitta)の作意を行ない、思索し、思詠し、すなわち法思擇(dharmapravicya)をなす。さらに詳しくは、[最高]学者位たる智慧行になるまでになる。これを「観(vipaśyanā)」と言う」(矢板 2015, p.21^{*},15-17: *vipaśyanā katamā. tenaiva punah śamataparibhāvitena manaskareṇa yathācintitāñām dharmāñām nimittamanasikriyā vicayā pravicyo dharmapravicyo vistareṇa yāvat pāñḍityam prajñācāraḥ. iyam ucyate *vipaśyanā*.*)

³ Cf. MSABh ad XVI v.27a: " jñeye"(v.27a) iti laukikakṛtyasyamayakpravicyayudāsārtham. 「『所知対象について[の思擇]』と言ったのは、世間的な所行としての正しい思擇を除くためである」。この文に対して MSAT 122a2-3: 'di las phyi rol pa rams kyi šes bya ltar snañ ba gañ yin pa de ni phiyin ci log dañ ldan pa'i phiyir yañ dag pa'i šes bya ma yin no. bden pa bžis bsduš pa dañ byan chubs sems dpa'i theg pa gsum la mkhas pa dan khyad par du na theg pa chen po gañ yin pa ni šes bya yin te, rig pa'i gnas lha ni de dag gi kholis su 'dus pa ūid do. 「他宗派の所知対象ごときものは、顛倒したものも含むから、正しい所知対象ではない。四諦の受持や、菩薩の三乗、特には大乗であるが、についての善知、これらが所知対象というものであり、五明處(pañca-vidyāsthāna)がこれらに含まれる」。Cf. 長尾 2009 p.50, note 1.

(2) <一切慧(sarvā prajñā)>

(問) また、菩薩の一切の智慧(sarvā prajñā)とは何か。(答) それは、世間的な[智慧]と出世間的な[智慧]、の二種と理解すべきである。その[智慧]は更に、総じて三種あると知るべきである⁴。即ち[以下に解説されるところの]、(i) 所知対象(jñeya)について真実(tattva)を認識し了知するための[智慧]、(ii) 前述の五明處(pañca-vidyāsthāna)と三つの集まり(tri-rāśi, 三聚)を精巧に行うための[智慧]、そして(iii) [一切]衆生を利益する(arthakriyā)ための[智慧]である。

(2) (i) <所知対象について真実を認識し了知するための智慧 (jñeyatattvānubodha-pratividhāya prajñā)>

諸菩薩が、[言葉では]表現できない(anabhilāpya. 離言説)ところの法無我性(dharma-nairātmya)を縁として、真諦(satya)をまさに認識しようとする[智慧]⁵、あるいは真諦を認識した時の[智慧]⁶、あるいは真諦を覚った後の智慧は⁷、最高の寂静(praśama)を現前しており、無分別(nirvikalpa)であり、一切の戯論(prapañca)を離れ、一切法の平等性(samatā)を悟り、大總相(mahāsāmānyalaksana)に入り⁸、所知対象の辺際にまで到っており、そして増益(samāropa)と損減(apavāda)の二極を遠離してゐるが故に中道(madhyamapratipad)に順じてゐる。以上が、[所知対象(jñeya)について]真実を認識し了知するための智慧である、と知るべきである。

(2) (ii) < 五明處と三聚を精巧に行うための智慧(vidyāsthāneṣu triṣu ca rāśiṣu kauśalya-kriyāyai prajñā)>

五明處を精巧に行うことについては、以前のように、即ち『力種姓品(Balagotrapaṭala)』において詳しく述べたように⁹、理解すべきである。

⁴ Cf. BBhV 193b7: rnam pa de dag gñi ga yañ ci rigs par gsum du rig par bya ste: (a) de kho na'i rjes su žugs pa dañ, (b) mkhas pa'i rjes su žugs pa dañ, (c) bya ba'i rjes su žugs pa ste. 「これら二種はまた適宜、[次の]三[種]であると知るべきである : (a) 真実(tattva)への悟入、(b) 精巧さ(kauśalya)への悟入、そして(c) 利行(artha-kriyā)への悟入である」。

⁵ Cf. BBhV 194a2-3: bden pa rtogs par bya ba 'am žes bya ba la de ni mos pas spyod pa'i sar gtogs pa'o. 「『真諦(satya)をまさに認識しようとする』といふのは、信解行地(adhimukticaryābhūmi)に達しているのである」。

⁶ Cf. BBhV 194a3: bden pa rtogs pa'i dus sam žes bya bas ni sa dañ po la žugs pa'i dus su'o. 「『真諦を認識した時の』といふのは、初地(prathama-bhūmi)に達した時ということである」。

⁷ Cf. BBhV 194a3-4: bden pa mñon par rtogs pa yan chad ces bya ba ste, de ni sa gžan la rig par bya'o. 「『真諦を覚った後』とあり、これは[初地]以外の地において、と理解すべきである」。

⁸ Cf. BBhV 194a6: de bzin ñid kun du 'gro ba la žugs pa'i phyir spyi'i mtshan ñiid chen po la žugs pa žes bya'o. 「一切處の真如(tathatā)に入るから『大總相に入る』といふ」。

⁹ 『力種姓品(Balagotrapaṭala)』については、矢板 2015 にテキストと和訳がある。そこには「これらの五明處こそ、菩薩が探求するものである。このようにして、彼により一切の学問分野(明處)

また三つの集まり(tri-rāśi, 三聚)とは¹⁰、[必ずや衆生の]利益に資する(arthopasamṛhita)諸法の集まり、[決して衆生の]利益に資さない諸法の集まり、[衆生の]利益に資するのでもなく[衆生の]利益に資さないのでない諸法の集まりである。

以上これらの[合計]八種の項目を智慧が精巧に[行うことが]できれば、それは無上正等菩提(anuttara-samyaksambodhi)[に到達する]ための広大無上なる知的資糧を[十分に]円満している。

(2) (iii) <衆生を利益するための智慧(sattvārthakriyāyai prajñā)>

衆生を利益するということは、以前[戒品において説かれた饒益有情戒]と同様に、十一種であると理解すべきである¹¹。それが衆生を利益するための智慧であると理解すべきである。

(3) <難行慧(duṣkarā prajñā)>

(問) 次に、菩薩の難行なる智慧(duṣkarā prajñā)とは何か。(答) それは、三種であると理解すべきである。

(i) 甚深なる法無我(dharmanairātmya)を了知するための、難行なる[智慧]である。

(ii) 諸衆生を調御する方便(vinayopāya)を了知するための、難行なる[智慧]である。

(iii) 一切の所知対象(jñeya)を障礙無く了知するための、最も難行なる[智慧]である。¹²

(4) <一切門慧(sarvatomukhī prajñā)>

(問) 次に、菩薩の一切門の智慧(sarvatomukhī prajñā)とは何か。(答) それは四種であると理解すべきである。即ち、声聞藏(śrāvakapitaka)と菩薩藏(bodhisattvapitaka)に基づいての、(i) [三慧の中の]聞所成(srutamayī)の智慧と、(ii) 思所成(cintāmayī)の智慧、そして、(iii) 菩薩の実行すべきことの肯定と、また[菩薩の]実行すべからざることの否定とを思惟して[行動する]から、思惟(pratisamkhyāna)の力によって攝受された智慧、(iv) さらに静慮(bhāvanā、修)の力によって攝受された、定心の位階(samāhitabhūmi)にある、無量の智慧[、の四種]である。

が探求せらる』(同 p.35) とあり、その後、内明處を中心に五明處が説明される。

¹⁰ Cf. MVy 1737-1739: samyaktvaniyatārāśih, mithyātvaniyatārāśih, anyatārāśih.

¹¹ 饒益有情戒(sattvārthakriyāśīla, sattvānugrāhakām śīlam)については矢板 2017 など参照。

¹² Cf. BBhV 194b6: ses rab de dag ni bdag dañ gźan la phan pa sgrub pa dañ, gźan la phan pa i thabs sgrub pa dañ, gźan la phan pa i nus pa sgrub pa i dbañ du byas pa yin par rig par bya 'o. 「これら[三種の]智慧は、自己と他者への利益をなし、他者を利益する方便をなし、他者への利益を可能にすることを自在にするものである、と理解すべきである」。

(5) <善士慧(satpuruṣaprajñā)>

(問) 次に、善士たる菩薩の善士の智慧(satpurusaprajñā)とは何か。(答) それは五種であると理解すべきである。(i) 正法(saddharma)の聽聞により成就された[智慧]、(ii) 内的に如理作意(yoniśomanaskāra)するのに伴っている[智慧]、(iii) 自利・利他の実践のための方便を伴っている[智慧]、(iv) 諸法の無顛倒なる法そのもの(dharmasthiti)・法安立(dharmavyavasthā)について極めて確定的なる智慧、(v) そして諸煩惱を破棄する智慧[、の五種]である。

また別な[五種を上げる]解釈がある。(i') 微細な(sūksma)[智慧]である。なぜなら、あるがままに所知対象(jñeyā)に悟入しているから。(ii') 周到な(nipuṇa)[智慧]である。なぜなら、あらん限り所知対象に悟入しているから。(iii') 生得(sahaja)の[智慧]である。なぜなら、前生での了知資糧を得知しているから。(iv') 聖言(āgama)を具足した[智慧]である。なぜなら、仏陀(buddha)、そして大地(mahābhūmi)に悟入した諸菩薩によって広説された法の意義を取得し受持しているから¹³。(v') 修学(adhigama)を具足した[智慧]である。なぜなら、[初地の]浄心地(suddhāśayabhūmi)から到究竟地(niṣṭhā-gamanabhūmi)まで[の十地]を撰持しているから¹⁴。

(6) <一切行相智慧(sarvākārā prajñā)>

(問) 次に、菩薩の一切行相の智慧(sarvākārā prajñā)とは何か。(答) これには六種と七種とがあり、一つに合わせれば十三種であると理解するべきである。

[四聖]諦の中の苦智(duḥkhajñāna)、集智(samudayajñāna)、滅智(nirodhajñāna)、道智(mārgajñāna)、そして最終的にある尽智(kṣayajñāna)、無生智(anutpādajñāna)である¹⁵。以上がまざ、六種の智慧である。

一方、七種[の智慧]は、法智(dharmajñāna)、類智(anvaya jñāna)、世俗智(saṃvṛtijñāna)、神通智(abhijñājñāna)¹⁶、相智(lakṣaṇajñāna)、十力智(daśabalapūrvāṅgamajñāna)、四種道理の

¹³ Cf. BBhV 195b2: byaṇ chub sems dpa'i sde snod thos pa la sogs pa las kyes pa ni luṇ daṇ ldan pa'i śes rab (āgamopetā) ces bya'o. 「菩薩蔵を学ぶなどにより生じるのが『聖言(āgama)を具足した智慧』である」。

¹⁴ Cf. BBhV 195b2: sa bcu rnams su so sor rig pa ni rtogs pa daṇ ldan pa (adhigamopetā) žes bya'o. 「十地(daśa-bhūmi)をみな得知しているから『修学(adhigama)を具足した[智慧]』と言う」。

¹⁵ Cf. BBhV 195b3-4: 'di nīd la ḥon moṇs pa zad pa śes pa (kṣayajñāna) daṇ ma 'oṇs pa na phuṇ po mi skye ba śes pa (anutpādajñāna) 'o. phuṇ po lhag ma daṇ bcas pa'i mya ḥan las 'das pa'i dbaṇ du byas nas zad pa śes pa (kṣayajñāna) daṇ mi skye ba śes pa (anutpādajñāna) rnam par gžag go. 「まさにここでは煩惱滅尽の智慧(尽智)であり、未来にこれ以上[煩惱等は]生じない智慧(無生智)である。余依涅槃(sopadhiśeṣanirvāṇa)により尽智と無生智とが確立している」。

¹⁶ Cf. BBhV 195b6: mthu rnam pa drug daṇ ldn pa ni yaṇ mṇon par śes pa (abhijñā) žes bya'o. 「六神通を具備するから『神通[智]』である」。ここで「神通智」の代わりに「他心智」であれば、いわゆる「十智」(法智・類智・世俗智・他心智・苦智・集智・滅智・道智・尽智・無生智)である(Cf. AKBh 394,13-14, etc.)。六神通は神足・天眼通・天耳通・他心通・宿命通・漏尽通。 Cf.

中の道理智(yuktijñāna)である¹⁷。

(7) <困窮し求める者に対する智慧(vighātarthikaprajñā)>

菩薩の、困窮し求める者に対する智慧(vighātarthikaprajñā)とは何か。それは八種であると理解すべきである。(i) 諸法の諸門(paryāya)の認識に基づいての、菩薩の諸法についての無礙智(dharma-pratīsaṃvid, 法無礙慧)、(ii) 諸法の諸相(laksana)の認識に基づいての、意義についての無礙智(artha-pratīsaṃvid, 義無礙慧)、(iii) 諸法の言辞(nirvacana)の認識に基づいての、言語についての無礙智(nirukti-pratīsaṃvid, 託詞無礙慧)、(iv) 諸法の種類句の相違に基づいての、弁舌についての無礙智(pratibhāna-pratīsaṃvid, 弁無礙慧)、(v) 一切の外道論者を折伏させる菩薩の智慧、(vi) 一切の自派の理論の正しさを確立させる[菩薩]の智慧、(vii) 家系の良好なる永続のため、そして家族の繁栄のための智慧、(viii) 王族の規範と世俗民の行動の規範についての、菩薩の確実な智慧[、以上の八種の智慧]である。

(8) <今世・他世を福樂とする智慧(ihāmutrasukhā prajñā)>

諸菩薩の、今世・他世を福樂とする智慧(ihāmutrasukhā prajñā)とは何か。それは九種あると理解すべきである。

(i) 自派学問(adhyātmavidyā, 内明)について極く明晰且つ堅固なる智慧、(ii) 医学(cikitsāvidyā, 医方明)、(iii) 論理学(hetuvidyā, 因明)、(iv) 言語学(śabda-vidyā, 声明)、(v) 一般の技術工芸学(silpa-karṇamsthāna-vidyā, 工巧明)について極く明晰であり、しかし堅固ではない智慧、そして、まさにそれら極く明晰なる五種の学問(五明)に基づいて菩薩が、(vi) 愚蒙なる人々(vineya, 所化)を教示する智慧、(vii) 放逸なる人々を教導する[智慧]、、(viii) 落ち込んでる人々を励まし教える[智慧]、(ix) 正行の人々を喜悦させる[智慧]、[これら九種の智慧が今世・他世を福樂とする智慧]である。

(9) <清淨なる智慧(viśuddhā prajñā)>

(問) 次に、菩薩の清淨なる智慧(viśuddhā prajñā)とは何か。(答) それはまとめて十種あると理解すべきである。

(i)(ii) 真理(tattva)の意義について二種[の智慧]がある。真理の意義を、[一方は]あらん限りに捉え、[一方は]あるがままに捉えるからである。¹⁸

MVy 7653: abhhijñajñānam (mñon par śes pa'i ye śes, 現前智慧).

¹⁷ 四種道理については拙稿矢板 1989 がある。

¹⁸ Cf. BBhV 196b2: de kho na'i don yañ rnam pa gñis te, de kho na'i don yañ dag pa dañ rnam pa thams cad yoñs su geod pa'o. 「真実の意義については二種であり、真実の意義を最勝義に[分析し]、そして一切の種類に分析する」。

(iii)(iv) 輪廻転生(pravṛtti,流轉)の意義について二種[の智慧]がある。[一方は]正しく[その]原因から捉え、[一方は]正しく[その]結果から捉えるからである。

(v)(vi) [対象の]執受(upādāna)の意義について二種[の智慧]がある。[一方は]顛倒[の観点]から、[一方は]不顛倒[の観点]から、如実に了知するからである。

(vii)(viii) 方便(upāya)の意義について二種[の智慧]がある。[一方は]一切の為すべきこと[の観点]から、[一方は]一切の為すべからざること[の観点]から、如実に了知するからである。

(ix)(x) 究め尽くすこと(niṣṭhā,究竟)の意義について二種[の智慧]がある。[一方は]雜染を雜染[の観点]から、[一方は]清浄を清浄[の観点]から、如実に了知するからである。

以上これら、諸菩薩の五行相、十種類の清浄なる智慧は、最高の清浄とるべきである。

以上の、諸菩薩の極めて決定的なる無量の智慧は、大菩提(mahābodhi)を結果する。この[智慧]を基に諸菩薩は智慧波羅蜜(prajñāpāramitā, 般若波羅蜜)を円満成就し、無上正等菩提(anuttara-samyaksambodhi)を証覚する。

(a) <六波羅蜜まとめ>

以上[、第九章「布施品」から本章第十四章「慧品」]は、世尊によりあれこれの諸經典¹⁹の中で散説されている六波羅蜜について、まとめて略説したものであると理解すべきである。如來が説かれたこの經典において、布施波羅蜜(dānapāramita)から智慧波羅蜜(prajñāpāramitā)まで[の六波羅蜜]が宣説され、あるいは解説された。その[第一の布施波羅蜜]は[第1節]布施の自性(svabhāvadāna)²⁰から[第9節]清浄なる(shuddha)[布施]まで[順に]進みゆくべきであり、そして、その内容(samgraha)も適宜理解すべきである。他の、これまで解説されてきた、[第二の]戒[波羅蜜(sīlapāramitā)]から[第六の]智慧[波羅蜜(prajñāpāramitā)]までの[五波羅蜜]も、[それぞれ各節の]進行と内容を適宜、[布施波羅蜜と]同様に理解すべきである。

²¹諸如來の[過去世における]菩薩行(bodhisattvacaryā)の中での難行苦行に相応する

¹⁹ BBhV は「Ārya-a-kṣayamati-sūtra(?)など」と言う。Cf. BBhV 196b6: 'phags pa blo gros mi zad pa'i mdo la sogs pa'i mdo rnam so.

²⁰ = dānasvabhāva. Cf. 矢板 2008 p.166, n.21.

²¹ Cf. BBhV 197a1-3: mdo sde 'ba' zīg tu ma zad kyi skyes pa'i rabs la sogs pa rnams la yañ sbyar bar bya'o žes bstan pa'i phiyir smras pa: "skyes pa'i rabs dpag tu med pa (aprameyāñi jātakāñi)" žes bya ba la sogs pa la. byañ chub sems dpa'i skyes pa'i rabs thams cad ni pha rol tu byin pa drug dan yan dag par ldan pa yin te. byañ chub sems dpa'i spyod pa thams cad ni bsod nams dan ye séś kyis

無数の本生譚(jātaka)は、すべて布施[行]に相応しており、布施[行]に依って理解すべきである。布施と同じように戒、忍、精進、静慮も同様であり【、無数の本生譚は、すべて戒、忍、精進、静慮に相応しており、戒、忍、精進、静慮に依って理解すべきであり】、そして【同様に、無数の本生譚は】すべて智慧に相応しており、智慧に依って理解すべきである。

或る[本生譚]は布施のみに依って[理解すべきであり]、[同様に、また或る本生譚は、戒のみに、また忍のみに、また精進のみに、また静慮のみに依って理解すべきであり]、乃至、或る[本生譚]は智慧のみに依って[理解すべきであり]、或る[本生譚]は[六波羅蜜のうちの]二[波羅蜜]が関わっており、また或る[本生譚]は[六波羅蜜のうちの]三[波羅蜜]が関わっており、或る[本生譚]は[六波羅蜜のうちの]四[波羅蜜]が関わっており、或る[本生譚]は[六波羅蜜のうちの]五[波羅蜜]が関わっており、そして或る[本生譚]は六波羅蜜すべてに依って理解すべきである。

これら六波羅蜜に基づいて無上正等菩提(anuttara-samyaksambodhi)を証覚している諸菩薩は、「大白法溟(mahāśukladharmāṇavāḥ)」「大白法海(mahāśukladharmasamudrāḥ)」と呼ばれ、一切衆生のあらゆる種類の円満(sampatti)の原因となっているから「大宝物の施者(mahāratnapradāḥ)」と呼ばれる。彼ら[諸菩薩]の、そのような無量の福徳(punya)と智(jñāna)の集積を獲得することに匹敵するような成果は、只々無上正等菩提一つを除けば、他にないのである。

以上で、『菩薩地』の中、基盤たる瑜伽處の第十四「慧品」は終わる。

rab tu phye ba yin pa ī phyir ro. 「[以上のことは]経典(sūtra)だけでなく本生譚(jātaka)などにおいても[同様に]つながる、ということを述べるために[次に]『無数の本生譚は』云々という。菩薩の本生譚はすべて六波羅蜜と結びついている。なぜなら菩薩の所行はすべて福徳(punya)と智(jñāna)より起こっているからである」。

**Text of the *Prajñā* Section,
the 14th Chapter of the Bodhisattvabhūmi**

(W p.212; Du p.146; R 144a; C 84b6 ; K 146a5; Tib D 113a5; Tib P 126a5; Ch 528b25;
 5 BBhV D 193b3; P 240b1)

uddānam pūrvavad veditavyam.¹

(1) < *prajñāsvabhāva* >

10 tatra katamo bodhisattvasya prajñāsvabhāvah. sarvajñeyapraveśāya ca² sarva-jñeyānupravistaś ca yo dharmānām pravicayah pañcavidyāsthānāny ālambya pravartate, adhyātmavidyām hetuvidyām śabdavidyām cikitsāvidyām Śilpakarmasthānavidyām ca, ayan bodhisattvānām prajñāsvabhāvo veditavyah.

15 (2) < *sarvā prajñā* >

tatra katamā bodhisattvānām sarvā prajñā³. sā dvividhā draṣṭavyā, laukikī⁴ lokottarā ca. sā punah samāsatas trividhā veditavyā, (i) ⁵jñeyatattvānubodhaprativedhāya, (ii) pañcasu ca yathānirdiṣṭe⁶ vidyāsthāneṣu triṣu ca rāśiṣu kauśalyakriyāyai⁷, (iii) sattvārthakriyāyai ca.

20 (2) (i) yā bodhisattvānām anabhilāpyaṁ dharmanairātmyam ārabhya satyāvabodhāya⁸ vā satyāvabodhakāle⁹ vā satyābhisaṁbodhād vā¹⁰ ūrdhvam¹⁰ prajñā paramapraśama-

¹ Cf. BBh W p.137,1-8 (*Śīlapaṭala*): uddānam, svabhāvaś caiva sarvam ca duṣkaram sarvatomukham/ syāt sātpaurusyuktam ca sarvākāram tathaiva ca// vighātarthikayuktam ca ihāmutrasukham tathā/ viśuddham ca navākāram Śīlam etat samāsatah // (= DāP 1*,5-9, W 114,1-7). Ch 528b27-c5: 云何菩薩慧波羅蜜多。喚陀南曰。自性一切難一切門善士 一切種遂求 二世樂清淨。如是九種相是名略說慧。謂九種相慧名爲菩薩慧波羅蜜多。一者自性慧。二者一切慧。三者難行慧。四者一切門慧。五者善土慧。六者一切種慧。七者遂求慧。八者此世他世樂慧。九者清淨慧。Cf. DāP 1*,13-16: navākāram dānam bodhisattvasya dānapāramitety ucyate. svabhāvadānam sarvadānam duṣkaradānam sarvatomukham dānam satpuruṣadānam sarvākāradānam vighātarthikadānam ihāmutrasukham dānam viśuddhadānam ca.

² R,K om. ca. C,W,Du read ca.

³ R,K: sarvaprajñā.

⁴ W: laukikā.

⁵ C,W: jñeyatattvānubodha-.

⁶ K: -nirdiṣṭeva.

⁷ C: kauśalakriyāyai.

⁸ R,C: satyāvabodhāya. Tib: bden pa rtogs par bya ba 'am, Ch: 於真諦將欲覺悟。

⁹ Instead of vā, C reads satyābhisaṁbodhakāle.

pratyupasthānā¹¹ nirvikalpā sarvaprapāñcāpagatā¹² sarvadharmaśu samatānugatā mahā-sāmānyalakṣaṇapravīṣṭā jñeyaparyantagatā samāropāpavādāntadvayavivarjitatvā¹³ madhyamapratipadanusāriṇī¹⁴, iyaṁ bodhisattvānāṁ¹⁵ tattvānubodhaprativedhāya prajñā veditavyā.

5 (2) (ii) pañcasu vidyāsthāneśu kauśalyam¹⁶ vistareṇa pūrvavad veditavyam, tad yathā balagotrapaṭale.

trayaḥ punā¹⁷ rāśayo 'rthopasam̄hitānāṁ dharmānāṁ rāśih, anarthopasam̄hitānāṁ dharmānāṁ rāśih, naivārthopasam̄hitānāṁ nānarthopasam̄hitānāṁ¹⁸ dharmānāṁ rāśih.

ity eteṣv aṣṭāsu sthāneśu prajñāyāḥ kauśalyaparigraho¹⁹ mahāntam niruttaram 10 jñānasam̄bhāram paripūrayaty anuttarāyai <^{W213>} samyaksam̄bodhaye.

(2) (iii) sattvārthakriyā punah pūrvavad²⁰ ekādaśaprakāraiva²¹ veditavyā. teṣv eva²² sthāneśu yā prajñā sā sattvārthakriyāyai prajñā veditavyā.

(3) <duṣkarā prajñā>

15 tatra katamā bodhisattvasya duṣkarā prajñā. sā²³ trividhā draṣṭavyā, (i) gambhīrasya dharmanairātmasya jñānāya²⁴ duṣkarā, (ii) sattvānāṁ vinayopāyasya jñānāya²⁵ duṣkarā, (iii) sarvajñeyānāvaraṇajñānāya ca paramaduṣkarā²⁶. (Du 147)

¹⁰ C: üdhva, Du: urddham.

¹¹ C om. pra and reads -typasthānā. R: -pratyupasthāna, W: -vyupasthānā. Tib, BBhV: ū bar gnas pa, Ch: 明了現前。

¹² Du: sarvam prapañcāgatā sarvam dharmeśu.

¹³ C,W: -vivarjita.

¹⁴ R,K: madhyapratipadanusāriṇī.

¹⁵ K adds artha and reads: tattvārthānubodha-.

¹⁶ C,W: kauśalam.

¹⁷ C: punarāśayah arthopa-..

¹⁸ Du: nānā'rthopasam̄hitānāṁ. Tib: don dañ ldn pa yañ ma yin don dañ mi ldn pa yañ ma yin pa'i chos rnam kyi tshogs te for naivārthopasam̄hitānāṁ nānarthopasam̄hitānāṁ.

¹⁹ C,W: kauśalaparigrahaḥ.

²⁰ K: pūrvad.

²¹ R: ekādaśaprakāra caiva(?)

²² K: teṣvavasthāneśu.

²³ C,W om. sā. Tib: de ni.

²⁴ C,W,Du: -nairātmyajñānāya.. Tib: chos bdag med pa zab mo šes par dka' ba. Ch: 能知甚深法無我智. R,K: -nairātmyasya jñānāya.

²⁵ R,Du: prajñānāya. Tib: 'dul ba'i thabs šes par dka' ba. Ch: 能了有情調伏方便智.

²⁶ C,W om. parama. Tib: mchog tu dka' ba. Ch: 是名第三最難行慧.

(4) < *sarvatomukhī prajñā* >

tatra katamā bodhisattvasya²⁷ sarvatomukhī²⁸ prajñā. sā caturvidhā²⁹ draṣṭavyā, śrāvakapīṭakam³⁰ bodhisattvapiṭakam cārabhya (i) śrutamayī prajñā, (ii) cintāmayī prajñā, (iii) pratisaṃkhyāya³¹ bodhisattvakaranīyānuvṛttā akaranīyanuviṣṭau ca pratisaṃkhyāna-
5 balasamṛghītā prajñā, (iv) bhāvanābalasamṛghītā ca samāhitabhūmikā³² apramāṇā prajñā.

(5) < *satpuruṣaprajñā* >

tatra katamā bodhisattvasya satpuruṣasya satpuruṣaprajñā. sā pañcavidhā draṣṭavyā. (i) saddharmaśravaṇasamudāgatā³³, (ii) pratyātmam³⁴ yoniśomanaskārasahagatā, (iii) 10 svaparārtha pratipattyupāyasahagatā, (iv) dharmāṇam dharmasthitidharmavyavasthām³⁵ avipariṭtām ārabhya³⁶ suviniścītā prajñā, (v) kleśavijahanā³⁷ ca prajñā.
aparaḥ paryāyah. (i') sūkṣmā yathāvadbhāvikatayā jñeyapraveśāt³⁸, (ii') nīpuṇā yāvadbhāvikatayā jñeyapraveśāt, (iii') sahajā pūrvakajñānasamabhārasamudāgamāt, (iv') 15 āgamopetā buddhair mahābhūmipraviṣṭaiś ca bodhisattvaiḥ samprakāśitadharmaṁtho-
dgrahaṇādharaṇāt³⁹, (v') adhigamopetā śuddhāśayabhūmim upādāya yāvan niṣṭhāgamana-
bhūmiparigrahāt.

(6) < *sarvākārā prajñā* >

tatra katamā bodhisattvasya sarvākārā prajñā. sā ^{<W214>} ṣaḍvidhā saptavidhā 20 caikadhyam abhisamkṣipy trayodaśavidhā veditavyā.
satyeṣu (i)duḥkhajñānam (ii)samudaya�ñānam (iii)nirodhajñānam (iv)mārgajñānam

²⁷ K om. sya.²⁸ C,W: sarvatomukhā.²⁹ Du: caturvidyā.³⁰ R: śrāvakapīṭakam.³¹ K: pratisaṃkhyeya. Tib: so sor brtags nas.³² K adds ma and reads -samudāgamatā.³³ K adds sa and reads pratyātmasam. Tib: so sor nañ gi.³⁴ Du just reads svaparārthaniścītā prajñā kleśavijahanā ca prajñā, and omits -pratipattyupāyasahagatā dharmāṇam dharmasthitidharmavyavasthām avipariṭtām ārabhya suvi-.³⁵ R: dharmasthitānūdharmavyavasthām. K: dharmasthitindharmavyavasthām.³⁶ R: suniścītā. K: saniścītā. Tib: ſin tu rnam par dag pa gtan la dbab pa'i ſes rab; Ch: 善決定慧.³⁷ R,K: -vijahanā.³⁸ R om. pra and reads jñeyaveśāt.³⁹ Du: -dharmārthaṣyodgrahaṇāt. Cf. R,C,K: -dharmārthodgrahaṇāt.

(v) niṣṭhāyām kṣayajñānam (vi) anutpādajñānam⁴⁰. iyaṁ tāvat ṣaḍvidhā prajñā.

saptavidhā punah. (i') dharmajñānam (ii') anvaya jñānam (iii') saṃvṛtijñānam (iv') abhijñājñānam (v') lakṣaṇajñānam (vi') daśabalapūrvāṅgamajñānam⁴¹ (vii') catasru ca yuktisu yuktijñānam.

5

(7) < vighātārthikaprajñā >

tatra katamā⁴² bodhisattvasya vighātārthikaprajñā. sā[^] aṣṭavidhā draṣṭavyā.

(i) dharmāñām paryāyajñānam ārabhya bodhisattvasya⁴³ dharmapratisamvit. (ii) dharmāñām lakṣaṇajñānam ārabhyārtha pratisisamvit. (iii) dharmāñām nirvacanajñānam ārabhya niruktipratisamvit⁴⁴. (iv) dharmāñām prakārapadaprabhedam ārabhya prati-bhānapratisamvit. (v) sarvaparapravādinigrāhāya⁴⁵ bodhisattvasya prajñā. (vi) ⁴⁶ sarva-svavādavyavasthānāpratiṣṭhāpanāya⁴⁷ ca prajñā. (vii) gr̥hatantrasamyakprāyanāya⁴⁸ kulodayāya prajñā. (viii) rājanītilaukikavyavahāranītiṣu ca bodhisattvasya yā niścīta⁴⁹ prajñā.

15

(8) < ihāmutrasukhā prajñā >

tatra katamā bodhisattvasya[^] ihāmutrasukhā prajñā. sā navavidhā draṣṭavyā.

(i) adhyātmavidyāyām suvyavadātā supratiṣṭhitā prajñā, (ii) ⁵⁰ cikitsāvidyāyām (iii) hetuvidyāyām (iv) śabdavidyāyām (v) laukikaśilpakarmsthānavidyāyām suvyavadātā no tu pratiṣṭhitā prajñā, tām eva ca suvyavadātām pañcaprakārām vidyām niśryta yā bodhisattvasya ^(Du148) pareṣām vineyānām (vi) mūḍhānām (vii) pramattānām (viii)

⁴⁰ Cf. AKBh 394,14f.: ity etāni daśa jñānāni bhavanti, yad uta dharmajñānam anvaya jñānam saṃvṛtijñānam duḥkhajñānam samudaya jñānam nirodhajñānam mārgajñānam paracittajñānam kṣayajñānam anutpāda-jñānam.

⁴¹ C,Du,W: -pūrvāṅgamajñānam. K om. m̄ and reads -pūrvāṅgamajñānacatasru.

⁴² R. kamā instead of katamā.

⁴³ W om. sya. C: ?

⁴⁴ R. niruktapratisamvit.

⁴⁵ R: -nigrāhāya.

⁴⁶ R: sarvasvabhāvadavyavasthāna-. Tib: bdag gi smra ba mnam par gžag pa thams cad ...

⁴⁷ W om. pa and reads -pratiṣṭhānāya.

⁴⁸ R: gr̥hatantramsamyak-, K: gr̥hatantaṁsamyak-. Tib: khyim brgyud legs par bskyañ ba.

⁴⁹ R: nipaścītā, K: vipaścītā.

⁵⁰ R,K,Du: hetuvidyāyām śabdavidyāyām cikitsāvidyāyām laukika-. Tib: gso ba'i rig pa dañ gtan tshigs kyi rig pa dañ sgra'i rig pa dañ 'jig rten pa'i bzo dañ las kyi gnas kyi rig pa la. Ch: 於醫方明處因明處聲明處世工業明處。

saṁślinānām⁵¹ (ix) samyakpratipannānām yathākramam saṁdarśanī samādāpanī samuttejanī saṁpraharṣanī ca prajñā.

(9) < viśuddhā prajñā >

5 tatra katamā bodhisattvasya viśuddhā prajñā. sā⁵² samāsato <W215> daśavidhā veditavyā.

(i)(ii) tattvārthe⁵³ dvividhā⁵⁴, yāvadbhāvikatayā yathāvadbhāvikatayā ca tattvārthasya grahanāt.

(iii)(iv) pravṛtyarthē⁵⁵ dvividhā, samyag⁵⁶ ghetutah phalataś ca grahanāt.

10 (v)(vi) upādānārthe⁵⁷ dvividhā,⁵⁸ viparyāśāviparyāsayathābhūtaparijñānāt⁵⁹.

(vii)(viii) upāyārthe⁶⁰ dvividhā, sarvakaraṇīyākaraṇīyayathābhūtaparijñānāt.

(ix)(x) ⁶¹ niṣṭhārthe⁶² dvividhā, samkleśasya ca samkleśato vyavadānasya ca vyavadānato yathābhūtaparijñānāt.

15 iñiyam bodhisattvānām pañcākārā daśaprabhedā⁶³ prajñā viśuddhā paramayā viśuddhyā veditavyā.

iñiyam⁶⁴ bodhisattvānām suviniścitā cāprameyā ca prajñā mahābodhiphalā yām āśritya bodhisattvāḥ prajñāpāramitām⁶⁵ ⁶⁶ paripūrya[^] anuttarām samyaksambodhim abhisam- budhyante.

⁵¹ R: saṁślinānām.

⁵² C,K,W om. sā.

⁵³ K: tattvārtha.

⁵⁴ C om. dvividhā.

⁵⁵ K: pravṛttārthe.

⁵⁶ K: samyagghatutah; Du: samyagahetutah. Tib: rgyu dañ 'bras bu legs par 'dzin pa 'i phyir.

⁵⁷ K: upādānārtha.

⁵⁸ C om. viparyāśā.

⁵⁹ C om. nāt.

⁶⁰ R,K add pi (= api).

⁶¹ Du omits the next sentence (niṣṭhārthe dvividhā . . . yathābhūtaparijñānāt). Tib: kun nas ūñon moñis pa la kun nas ūñon moñis pa dañ rnām par byañ ba la rnām par byañ ba yañ dag pa ji lta ba bzin du yoñs su ūes pa 'i phyir mthar thug pa 'i don kyañ rnām pa gñis te.

⁶² R: niṣṭhārthapi(?)dvividhā. K: niṣṭhārthe pi dvividhā.

⁶³ K: daśapratkārabhedā.

⁶⁴ C adds ca.

⁶⁵ C om. m̄.

⁶⁶ K: paripūrayitvā instead of paripūrya.

(a) < *saṭ-pāramitā* >

sa khalv esa ṣaṇṇām pāramitānām teṣu teṣu sūtrāntareṣu bhagavatā vyagrāṇām nirdiṣṭānām ayan samāsasamgrahaniर्देशो⁶⁷ veditavyah. yasmiṁs tathāgatabhāṣite sūtre dānapāramitā vā yāvat prajñāpāramitā vā uddeśam āgacchati nirdeśam vā. sā 5 svabhāvadāne⁶⁸ vā yāvad viśuddhe vā dāne 'vatārayitavyā. samgrahaś ca tasyā yathāyogaṁ veditavyah. evam anyeṣām śīlādinām prajñāvasānānām yathānirdiṣṭānām avatāraḥ samgrahaś ca⁶⁹ yathāyogaṁ veditavyah.

yāni ca tathāgatānām bodhisattvacaryāsv⁷⁰ aprameyāni jātakāni duṣkaracaryā-pratisamyuktāni tāni sarvāṇi dānapratisamyuktāni dānam ārabhya veditavyāni. yathā 10 dānam evam śīlaṁ kṣāntim⁷¹ vīryam dhyānam, sarvāṇi prajñāpratisamyuktāni prajñām ārabhya veditavyāni.

kāni cid dānam evārabhya kāni cid yāvat prajñām evārabhya kāni cid dvayasaṁsr̄ṣṭāni kāni cit trayasaṁsr̄ṣṭāni kāni cic catuḥsaṁsr̄ṣṭāni kāni cit pañcasamaṁsr̄ṣṭāni kāni cit sarvā 5 eva saṭpāramitā ārabhya veditavyāni. <W216>

15 abhilī ṣaḍbhīḥ pāramitābhīr anuttarāyai samyaksambodhaye samudāgacchanto bodhisattvā "mahāśukladharmārṇavā" "mahāśukladharmasamudrā" ity ucyante. sarvasattvasarvākārasamptihetukā⁷² "mahāratnapradā" ity⁷³ ucyante. asya punar eṣām evam⁷⁴ apramāṇasya punyajñānasaṁbhārasamudāgamsya nānyat phalam evam anurūpam yathānuttaraiva samyaksambodhih.⁷⁵

20

⁷⁶bodhisattvabhūmāv ādhāre yogasthāne caturdaśamam⁷⁷ prajñāpaṭalam⁷⁸.

⁶⁷ K: sahasaṁgrahaniर्देशā.

⁶⁸ C: -dānena.

⁶⁹ W adds tasyā after ca.

⁷⁰ C,W,Du: bodhisattvacaryājanmāprameyāni. K: bodhisattvacaryāsvaprameyāni. R: ? Tib: byaṅ chub sems pa'i spoyd pa dag tu skyes pa'i rabs dpag tu med pa.

⁷¹ K om. m.

⁷² C,W,Du: sarvasattvasarvākārasamptihetumahāratnahrādā. K: sarvasattvasarvākārasamptihetumahāratnahrādā. Ch: 是一切有情一切種類圓滿之因名爲涌施大實泉池. Tib: sems can thams cad kyi rnam pa thams cad phun sum tshogs pa'i rgyu rin po che chen po sbyin pa yin no.

⁷³ C om. ity ucyante. Tib has no equivalent. See the previous note above.

⁷⁴ C: eva pramāṇasya.

⁷⁵ C,K,W,Du add iti. R: ?

⁷⁶ Du adds iti. C om. bodhisattvabhūmāu and reads: ādhāre yogasthāne prajñāpaṭalam caturdaśamam.

⁷⁷ K om. ma and reads caturdaśam.

⁷⁸ K adds samāptam.